

平成26年度第1回医療と介護の連携研修会アンケート結果まとめ

日時:H26.8.7(木) 6:30pm～8:30pm

会場:出羽庄内国際村ホール

1. 出席状況とアンケート回収率

出席者数 218名

	申込者数	出席者数	回答数	回収率
医療機関関係業務従事者	病院医師	3	3	83.3%
	診療所医師	2	2	
	歯科医師	0	0	
	薬剤師	4	4	
	看護師	49	47	
	歯科衛生士・歯科助手	0	0	
	医療ソーシャルワーカー	3	3	
	介護福祉士・介護員	0	0	
	事務・その他	3	2	
	小計	64	61	86.9%
参考	前回医療機関関係者状況	43	41	95.1%
福祉関係業務従事者	介護支援専門員	62	57	86.0%
	看護師	6	4	100.0%
	介護福祉士・介護員	42	34	126.5%
	相談員	9	8	25.0%
	作業療法士	1	1	100.0%
	管理栄養士	0	0	0.0%
	地域包括支援センター	36	35	82.9%
	事務	0	0	0.0%
	管理者	2	2	50.0%
	小計	158	141	91.5%
参考	前回福祉関係者状況	159	143	92.3%
その他	その他(行政、保健所、他市参加者等)	19	16	50.0%
	総計	241	218	87.2%
参考	前回総計	210	192	92.2%

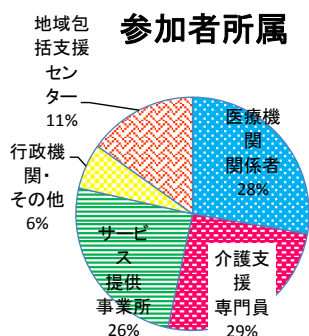
2. 所属ごとの満足度

所 属	人数	大変満足	満足	どちらとも	やや不満	未記入	総計	割合
医療機関関係者	人数	15	36	2			53	28.0%
	割合	28.3%	67.9%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%	
介護支援専門員	人数	9	35	3	0	2	49	25.9%
	割合	20.4%	68.5%	7.4%	0.0%	4.1%	100.0%	
サービス提供事業所	人数	12	31	5			48	25.4%
	割合	22.0%	68.0%	10.4%	0.0%	0.0%	100.0%	
行政機関・その他	人数	4	4				12	6.3%
	割合	41.7%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
地域包括支援センター	人数	10	19				29	15.3%
	割合	40.0%	65.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	人数	50	125	12	0	2	189	100.0%
	割合	26.5%	66.1%	6.3%	0.0%	1.1%	100.0%	

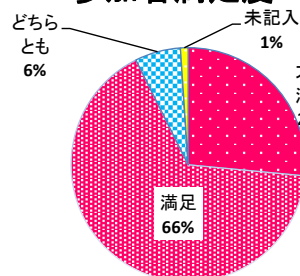
3. 参加回数ごとの満足度

参加回数	人数	大変満足	満足	どちらとも	やや不満	未記入	総計	割合
初めて	人数	22	41	7			70	37.0%
	割合	31.4%	58.6%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
2回目	人数	6	20	1		1	28	14.8%
	割合	21.4%	71.4%	3.6%	0.0%	3.6%	100.0%	
3回目	人数	21	64	4		1	90	47.6%
	割合	23.3%	71.1%	4.4%	0.0%	1.1%	100.0%	
4回目	人数							
	割合							
5回以上	人数							
	割合							
未記入	人数	1					1	0.5%
	割合	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
総計	人数	50	125	12	0	2	189	100.0%
	割合	26.5%	66.1%	6.3%	0.0%	1.1%	100.0%	

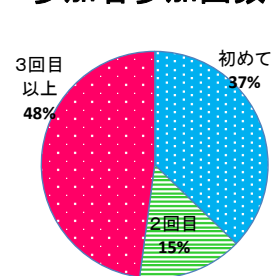
参加者所属



参加者満足度



参加者参加回数



1. 研修会の満足度ごとの理由

【大変満足】

病院から退院してからの受け入れ側の思いを知れて、今後の対応について考えさせられた。
様々な視点からの意見を聞くことができました。
認知症の方を地域で支えていくために必要な事が勉強になった。
初めて参加しましたが、他職種の方々の考え方を知ることができました。
BPSDは治療により、いったん治まる事ができる。
参加の回数を重ねるたびに、同じ地域にいてこういう関わり方があったのかと気付かされる。職種をこえて学べる。
多職種からの意見を聞くことができ良かった。
多職種の交流によって、とてもいろんな場面・経験談から学ぶことが多かった。
他の職種の方々への意見を聞くことができ、自分の考えも述べる事ができました。
職種によって意見が違ったり、「そうか」と思う事が多々あり。
認知症ケアに興味がある。
ご本人様に合った介護を取り組む
詳しい事例検討だったから。
他職種の方とGWでき、普段聞きにくかったこと・知らない情報を知ることができた。
病院看護師と相談員の関わるケースは興味深かった。日ごろ、認知症への対応はしていないと思っていたので驚きました。
1つのテーマに関していろんな職種の方の意見を聞くことができた。
在宅関係者、医療関係者が1つの課題に対して、当事者やその家族がスムーズに退院へ、又暮らしていくために話し合いができたから。
多職種の方と事例を通して話ができて、退院調整の行い方やサマリーの記入方法についての見直しが行えた。
他の方、特に他の職種の方との話を聞くことができたこと。
医療と介護の連携の強化ができるきっかけとなった。
同じ職種の方と色々な話し合い、意見を聞くことができ、役に立った。
異業種の現場の方の話を聞けたので良かった。
色々な意見が聞けて良かった。
他職種の方と情報共有できたこと。
とても有意義なディスカッションだった。
退院後のサポートをされている他職種の方々の話を聞け、大変勉強になった。
お互いに現場の声を聞けて、他職種の良い連携機会となった。
参加者の方から日頃の思い等聞けたこと。包括に関するアドバイスももらえた。

【満足】

他事業所、他職種の皆様と認知症高齢者について意見交換できた。
いつも思いますが、他職種と話し合いができる場は大切だと思います。
いろいろ発展できる事例だったのではないのでしょうか。
多職種とのグループワークをすることで、自分はどう動いたらいいのかというのが見えた。とても考え方など勉強することが多くてよかった。
実際の事例からグループワークで様々な職種に方の話が聞けてとても良かった。病院だけでは分からない、サービス利用と金銭面の関係も知ることができた。後藤先生の講義もきちんと聞ければよかった。
グループ内にいた先生の貴重な話が聞けた。
いろんな職種の方々と話ができて良かった。
グループワークで意見交換できた。
訪問介護をかけ出した私の仕事。人が好きなのでこの道に入りました。今日の研修に参加して利用する人は人生の先輩と思い、いろんなことを教えてほしいと引き出すことにしています。
普段医療現場にいるため、介護の現状をGWで知ることができました。
連携の必要性
多職種の方の話が聞けた。
「魂から云うを取ると鬼になる」がよかったです。

連携できる仲間が鶴岡には多くいるのだと改めて感じた。
他職種の方々の意見を聞くことができた。
内容には満足した。
グループワークでいろいろな意見が聞けて良かった。
いろいろな方の意見や考え方に触れる事ができた。
医療の視点からサービス提供のあり方や、地域の人たちへの関わりを持つ方法等を知ることができた。
他職種と話ができる機会があってよかった。
少し遅刻してはじめてから聞けなかったため。
認知症の方に対応する方法・手立てを具体的に学ぶことができた。
色々な人の現場の声が聞かれた。
初めてあった他職場の方々と一緒に話ができたと。
それぞれの立場の要望。話を聞くことができた。
いろんな職種の方と話ができるのでアプローチが様々で良かった。
ケースを通して、いろいろな人の意見を聞くことができる。
通所サービスはケアマネから依頼され、サービスを提供する。退院の際の問題点と色々な方の意見が聞かれて良かった。
ラフに話ができる。司会の方の言葉の遣い方が素敵だった。
他職種の様々な視点を知ることができた。
いろんな方の意見が聞けて良かったです。
グループワークでの他職種のそれぞれの立場での見聞が聞かれ大変勉強になりました。
介護職に就いて約半年。まだ勉強中です。気付き、相手に合わせて介助をすることの意味と効果を学びました。
ケアマネの立ち位置、その役割の重要性を確認できた。認知症の利用者、家族を支えるには周囲の協力と医療の連携は欠かせないと再確認できた。
いろんな職種の方の話が聞けた。
皆さまとお話できて良かったです。
他職種の方々と色々な話を聞けて良かった。
悩みを打ち明けられた。
フリートークはやはり「輪」ができる。Drもきちんと輪に入ってくれて、垣根が低くなっている。
の話が聞けて良かったと思います。
他職種の様々な視点での意見交換ができた。特に薬剤師さん。
たくさんの職種の方と意見を交わすことができた。
進行者がグループ員の話をもっと引き出してくれた
時代必要に迫られた課題を深める糸口となった。
各職種の方々より貴重な意見を聞くことができた。
各職種の方と意見交換ができ、大変参考になりました。
様々な職種の方のお話を聞くことができた。
様々な専門職と話せた。意識や考えを聞けた。こちらの状況を説明できた。
普段、なかなか連携することのない、施設の職員やNsの方とも話ができ良かった。自分とは違う視点での意見がいろいろ聞けて良かった。
いろいろな話を聞くことができた。
様々な職種からそれぞれの対応法や現状を聞けた。
他職種の方との意見交換が良かった。
多職種の意見や情報が聞けて参考になった。
意見交換できた。病院でもEntできず、急性的でも長期入院している人がいるなど。

【どちらでもない】

もう少し他のグループの意見も聞きたかった。
事例がもう少し具体的の方がカンファレンスの方向性がまとまりやすかったと思います。

1-2.研修の満足度を選択した際の理由(業種別)

所属	意見
医療関係の感想	病院から退院してからの受け入れ側の思いを知れて、今後の対応について考えさせられた。
	多職種とのグループワークをすることで、自分はどう動いたらいいのかというのが見えた。とても考え方など勉強することが多くてよかった。
	実際の事例からグループワークで様々な職種に方の話が聞けてとても良かった。病院だけでは分からない、サービス利用と金銭面の関係も知ることができた。後藤先生の講義もきちんと聞ければよかった。
	普段医療現場にいるため、介護の現状をGWで知ることができました。
	多職種の交流によって、とてもいろんな場面・経験談から学ぶことが多かった。
	他の職種の方々への意見を聞くことができ、自分の考えも述べる事ができました。
	認知症ケアに興味がある。
	少し遅刻してはじめてから聞けなかったため。
	認知症の方に対応する方法・手立てを具体的に学ぶことができた。
	色々な人の現場の声が聞かれた。
	初めてあった他職場の方々と一緒に話ができたと。
	それぞれの立場の要望。話を聞くことができた。
	いろんな職種の方と話ができるのでアプローチが様々で良かった。
	ケースを通して、いろいろな人の意見を聞くことができる。
	多職種の方と事例を通して話ができて、退院調整の行い方やサマリーの記入方法についての見直しが行えた。
	皆さまとお話できてよかったです。
	時代必要に迫られた課題を深める糸口となった。
	各職種の方と意見交換ができ、大変参考になりました。
居宅ケアマネ	とても有意義なディスカッションだった。
	退院後のサポートをされている他職種の方々の話を聞け、大変勉強になった。
	他事業所、他職種の皆様と認知症高齢者について意見交換できた。
	認知症の方を地域で支えていくために必要な事が勉強になった。
	いろいろ発展できる事例だったのではないのでしょうか。
	想像していたものと違った。もっと連携につて多職種の人の話が聞けると思っていた。
	グループワークで意見交換できた。
	内容には満足した。
	グループワークでいろいろな意見が聞けて良かった。
	いろいろな方の意見や考え方に触れる事ができた。
	他職種と話ができる機会があつてよかった。
	病院看護師と相談員の関わるケースは興味深かった。日ごろ、認知症への対応はしていないと思っていたので驚きました。
	1つのテーマに関していろんな職種の方の意見を聞くことができた。
	ラフに話ができる。司会の方の言葉の遣い方が素敵だった。
	他職種の様々な視点を知ることができた。
	ケアマネの立ち位置、その役割の重要性を確認できた。認知症の利用者、家族を支えるには周囲の協力と医療の連携は欠かせないと再確認できた。
	他職種の方々と色々な話を聞けて良かった。
	悩みを打ち明けられた。
	たくさんの職種の方と意見を交わすことができた。
	色々な意見が聞けて良かった。
	様々な専門職と話せた。意識や考えを聞いた。こちらの状況を説明できた。
	普段、なかなか連携することのない、施設の職員やNsの方とも話ができて良かった。自分とは違う視点での意見がいろいろ聞けて良かった。
	意見交換できた。病院でもEntでえず、急性的でも長期入院している人がいるなど。

1-2.研修の満足度を選択した際の理由(業種別)

所属	意見
サービス提供事業所	いつも思いますが、他職種と話し合いができる場は大切だと思います。
	いろんな職種の方々と話ができて良かった。
	初めて参加しましたが、他職種の方々の考え方を知ることができました。
	参加の回数を重ねるたびに、同じ地域にいてこういう関わり方があったのかと気付かされる。職種をこえて学べる。
	多職種からの意見を聞くことができ良かった。
	訪問介護をかけ出した私の仕事。人が好きなのでこの道に入りました。今日の研修に参加して利用する人は人生の先輩と思い、いろんなことを教えてほしいと引き出すことにしています。
	グループの人の声が聞こえ辛く、何について話し合っているのか分からなかった。
	連携の必要性
	多職種の方の話が聞けた。
	他職種の方々の意見を聞くことができた。
	医療の視点からサービス提供のあり方や、地域の人たちへの関わりを持つ方法等を知ることができた。
	ご本人様に合った介護に取り組む
	通所サービスはケアマネから依頼され、サービスを提供する。退院の際の問題点と色々な方の意見が聞かれて良かった。
	いろんな方の意見が聞けて良かったです。
	介護職に就いて約半年。まだ勉強中です。気付き、相手に合わせて介助をすることの意味と効果を学びました。
	いろんな職種の方の話が聞けた。
	他の方、特に他の職種の方との話を聞くことができたこと。
	同じ職種の方と色々な話し合い、意見を聞くことができ、役に立った。
	ざっくりすぎる部分がある。もう少し事例等詳しくても良い。
	認知症ケアについては何回も研修を受けているが日々の業務で流され自覚が薄れてしまうので、皆さまの話が聞けて良かったと思います。
	進行者がグループ員の話をもっと引き出してくれた
	各職種の方々より貴重な意見を聞くことができた。
	もう少し他のグループの意見も聞きたかった。
	様々な職種の方のお話を聞くことができた。
	他職種の方と情報共有できたこと。
	他職種の方との意見交換が良かった。
	事例がもう少し具体的の方がカンファレンスの方向性がまとまりやすかったと思います。
地域包括	様々な視点からの意見を聞くことができました。
	グループ内にいた先生の貴重な話が聞けた。
	BPSDは治療により、いったん治まる事ができる。
	職種によって意見が違ったり、「そうか」と思う事が多々あり。
	詳しい事例検討だったから。
	他職種の方とGWでき、普段聞きにくかったこと・知らない情報を知ることができた。
	グループワークでの他職種のそれぞれの立場での見聞が聞かれ大変勉強になりました。
	在宅関係者、医療関係者が1つの課題に対して、当事者やその家族がスムーズに退院へ、又暮らしていくために話し合いができたから。
	フリートークはやはり「輪」ができる。Drもきちんと輪に入ってくれて、垣根が低くなっている。
	他職種の様々な視点での意見交換ができた。特に薬剤師さん。
	いろいろな話を聞くことができた。
	お互いに現場の声を聞けて、他職種の良い連携機会となった。
	様々な職種からそれぞれの対応法や現状を聞けた。
	参加者の方から日頃の思い等聞けたこと。包括に関するアドバイスももらえた。
	多職種の意見や情報が聞けて参考になった。
行政・その他	「魂から云うを取ると鬼になる」がよかったです。
	連携できる仲間が鶴岡には多くいるのだと改めて感じた。
	医療と介護の連携の強化ができるきっかけとなった。
	異業種の現場の方の話を聞けたので良かった。

2. 今回の研修会に参加しての気づき(所属別)

所属	意見
医療関係	成功事例の流れを聞けて、入院時のアセスメントの重要性、連携の大切さを知ることができた。
	それぞれの職種が持っている専門性、経験を共有しあい、ひとつのところで考えあうことの重要性。
	もっと後藤先生の講演を聞きたかった。
	地域・病院・医療・家族・福祉との連携の重要性
	Fa・Ptの情報をケアマネに細かく報告・情報交換していくことがスムーズな退院につながるし、退院後もスムーズなケアをPtが受けられる。
	認知症患者さんへの対応として、小さな症状の出現から早期に対応していくことで、スムーズな退院支援・在宅への以降につながるのだと分かった
	時間配分について2つの症例はもう少し手短にし、グループワークの時間をもっと長めにとってほしかった。
	家族・地域が連携し、情報共有を密にしていくことが大切。
	数年前に比べるとGWの各メンバーの発言内容のレベルが格段にアップしていることに驚かされます。
	認知症患者への対応について在宅に向けての課題・ケアマネの役割、家族支援について気付くことができた。
	各職種での悩みがある事。
	連携がとても大切。
	介護職の皆さんの苦労を聞いた。
	色々なところで皆さんが頑張っている。
	認知症は家族の支援はもちろんですが、取り巻く環境や介護サービス連家の大切さ、地域への認識などこれから数多くのチーム作り認知症の認定士の役割は大きいと思う。
	ケアについて
	連携の重要性
	いろいろな視点、知らなかった仕組みや制度を知ることができた。
	本人にとっても家が居心地の良い場となれるよう、工夫しての対応が大切。ハンド&ハンド、ぬくもり、安心感を持てるよう接していきたいと思いました。
	地域の中での認知症の理解の大事さ
	一般の人達の教育が不十分と感じた。
	連携の大切さ。認知症の精神科へ通院(受診、入院)した方が早く治る?? 内科入院だと、本人に合ったペースは難しい。
	地域の情報について自分も知らなかったが、地域はもっと知らないということ。
	一人暮らしの方より同居家族がいるの方が踏み込めない部分があり、かえって見逃してしまうという盲点があることが分かった。
	認知症のある人への接し方はどうしなければならないのか気付かされた。
	認知症に対する地域の人達の理解不足
	他職種からの意見が聞けた。NSからの部分だけじゃないのが改めて勉強になった。
	認知症と付き合っていく家族への支援について色々な意見や学習ができ良かったと思います。
	医療の関係者との和、つながりの大切さ
	日頃あまり関わる事のない方々とのディスカッションで、いろいろ勉強になりました。病院の中で仕事をしているので地域との関わりの大切さに気付きました。また自分にはない発想の方がいて、なるほどなと感じました。
	介護関係の方のお話が聞けて大変良かった。
	専門職の方のお話を伺え、ためになった。
	普段サマリーに記入している情報が少なく、もう少し追加した方がよい情報があること。
	「連携」という言葉が多く出てきました。まさに連携なしではににも進みませんよね。
	地域が認知症の理解が必要

2. 今回の研修会に参加しての気づき(所属別)

所属	意見
医療関係	家族や地域への認知症についての指導員がまだいないということにびっくりした。今後増え続けていく「認知症」本人だけでなく家族指導員を増やしていきたいと思った。
	他職種・他事業所の地域の話が聞けた。
	本人の介護も大切だが家族背景なども大切なこと
	普段の業いではあまり深く考える事のない分野だったが、他職種の方々とディスカッションすることで様々なことに気付かされた
	各職種で考えてはいるが連携が十分とは言えない。
	疎遠になっている世の中、「愛」を持って相手がどのように考えているのか興味を持って関わっていくことが大切。明日は我が身です。「愛」のある介護を行っていききたいと思います。
	今後認知症は大きなテーマです。今後退院支援に向けた仕組み作り、体制を検討していきたい。
	次回も参加し知識を深めていこうと思いました。
	他の職種の方が実際に直面している問題や大変さを少しわかることができ、それを専門職がその専門性を発揮して協力しあえば、より質の高いケアが実践できると感じました。
	他職種で話し合うことで自分とは違う考え方が分かる。
	患者、家族が穏やかなケアを多職種の中から提供していくことが大切。
	鶴岡HPの事例の中で「興奮↑で身体拘束を開始」という一文に驚いた。興奮の程度はあると思うが、現状として拘束していることにショックです。
	施設の人が一生懸命

2. 今回の研修会に参加しての気づき(所属別)

所属	意見
居宅ケアマネ	自分の職種以外の方からの意見は参考になった。
	認知症の人への関わり方や、家族への情報提供を早期に行う必要があると感じた。
	認知症高齢者を閉じ込めるのではなく、地域全体で見守り支え合うことが大事だと、他の参加者の皆様も感じていたことに心強く感じた。
	話し合いの中からどの方も一生懸命に関わっていること。
	多職種の方々が認知症の方々に対しての支援をどのように考えているのかがわかったように思います。
	早い段階での情報共有
	グループワークの中で物忘れ相談医の内科医としての意見も聞くことができた。先生でも初期のどの段階で薬を使うか等。「地域」の活用について、認知症サポーターの活用等はどのようになっているのだろうか。
	家族の思いを考える事、地域の大切さ。環境の1つに自分もいる事。
	見て、聴いて、触れる再確認をした。
	新しい認知症ケアについて
	多職種の視点から同じ物事を考えるといろいろと違うことが新たな気づきになった。
	増えていく認知症について医療側で対応について積極的に取り組んでいると分かった。
	他職種との連携が良かった。皆が認知症を知る事、特に医療側に届いたことが良かった。
	認知症患者はとても困っている状態。早めの専門員を受診し、在宅で暮らせるよう支援していきたいと思います。
	同じようなケースもあった。その人、その家族で違うが関わる人（チーム）でも違うのだろうと思いました。
	本人・家族への情報提供と理解
	家族や地域住民への周知による連携（地域ケアの充実）ができるのではないか。認知症の人も私たちと同じ人間である。優しく接する。
	相談できる環境・地域づくりの大切さを学んだ。
	多職種の多視点があった。
	薬をもっと大事に考える。
	地域展開
	モニタリングの重要性を強く感じた。
	トータルケアの大切さ
	医師の考えについて、自分が考えていたことと違っていた。
	認知症に対する勉強を地域ぐるみで行っていくこと。
	認知症に対して多くの人達がとても真剣に考えていることが分かった。
	家族へのねぎらい
	早期発見→対応
	職種の違いで視点が違ったり、いろいろな支援の方法を聞けて良かった。
	CMの気づき、動きがいかにか大切かということ。
	色々な視点で事例を捉えることができた。
	改めて認知に対する関わりについて気付かされました。
	認知症を早期発見し治療を進めるように努めたい
	他職種からの異なる視点で考えさせられました。
	早く見つけて早く受診することが大切
	いらないと思っていた情報を入院病棟や主治医が必要としていたことに気がついた。
	ケアマネの早期の気づき、医療へのつなぎ役としてのケアマネの立場
	地域との連携、コミュニケーション
	認知症の人の気持ちを理解する。関わる職種が情報共有できる関係づくりをすること。
	地域で支え合う。認知症の方への関わり。ユマニチュード。
	医療との連携。HP側に窓口が何個もあると対応が大変。役割分担をしっかりとっていくことが大切。そのためのアセスメントをしっかりと。

2. 今回の研修会に参加しての気づき(所属別)

所属	意見
サービス提供事業者	早期発見から連携へ
	職種ごとの視点、手法は違うが目的は同じ。重要なのは周辺環境。
	地域の中で生活していくために何が必要か。介護サービスで何が必要か。
	他の職種の方々の意見は新鮮でした。
	職種は違っても思う所は同じなのだと感じた。
	一人の考えより、チームケアを行うことでより良い介護を発見し、ケアプランを作成できることに気付き勉強になった。
	本人、家族、スタッフの連携により、良い介護ができる。
	早い対応、早期受診が必要
	施設で仕事をしていると見えないことの多い、地域のことに目を向けることができた。
	現場での経験を伺えた。
	家族の認知に対する理解と環境も大事だということ。
	認知症の方と家族の距離を感じ、実際このような家庭が多いと思います。
地域包括	地域の情報はなかなか伝わっていないことが分かった。物忘れ相談医のPRがもっと必要。
	コミュニケーションの大切さ。認知症の理解を社会に広く普及していくことの大切さ。
	情報収集はどれも重視し、かつ市の情報や相談先の周知が重要だと感じている。認知症に対する地域や家族の理解の重要性を改めて感じた。
	包括の周知不足を地域の方は感じている。
	症状の変化が見られたときに原因がないか考える(見直す)ことからやってみる。
	自分が課題と思っていることは周りのみんなも思っていることだった。
行政・その他	ご本人の希望・思いを尊重する。精神科(医療)のNsと介護Nsの違いがあり、医療同士の連携の必要性を感じた。地域の見守り・民生もチームの1つになること。
	各職種の意識の高さ。いろいろな職種と話し合い、検討すると、様々な角度からモノをとらえることができ、新しい考えや発見がある。
	ケアマネの苦労や実態が分かりよかったです。
	認知症高齢者を支える職種は重なり合っていて(重なり合っていた方が)いいのだという事。
	他職種の人からの現場の状況(話題)が聞いたこと。
	とても参考になりました。
	その方のためにいろんな人達がどれだけ関わっていくかが大切だと思いました。
	認知症ケアについて。今後生かしていけるエキスが多くあった。
	認知症とそれを取り巻く市民の知識不足を実感した。
	うまく薬を処方してもらう。
	「魂」から云うを取ると「鬼」になる。コミュニケーションはどんな場面でも大切。

3. 本日の研修会に参加して取り組んでみようと思ったこと(所属別)

所 属	意 見
医 療 関 係	認知症についての理解を深める。
	PtのENTが見えてきたら、ケアマネに連絡を。
	病棟内での認知症患者ケアの学習
	認知症ケアについてもっと深めていく。穏やかなケアとは具体的にどのようなケアを提供すればよいのかを考え、実践していく。
	患者さんの入院時情報(家庭での状況)を詳細にPtu聴取し、治療が終わった後スムーズにENTでできるよう、入院時から課題としていくこと
	ユマニチュード(現在読んでいる)の理念と技術を理解したい。実践につなげたい。
	病院と地域のつながりに気付く事。
	認知症の患者に対する対応。ご家族の話をきちんと聞く。ねぎらいの声かけ。
	薬剤師としてできる事を介護職・多職種に伝えていくこと。
	高齢者認知症の方の諸疾患の治療方法。
	ネットワークの利用や研修会には積極的に参加していきたい。
	認知症患者家族への対応
	他職の方の視点・考え方を知れてとても良かった。
	抵抗や妄想、接し方で変化。家族が継続してできる事のおおらかな気持ちでのが対応できるよう、一緒に考え説明していきたいと思いました。早めの受診を勧める事を心がけていきます。
	相手を正面から見る
	家族からの声だけでなく、積極的な生活の場の状態を聞き出せる声かけを自分から行う。
	ケアマネなど、斤で分野の方との関わりを大事にする。
	年相応の物忘れとは何でしょうか？
	家族が納得するような説明の工夫。
	相手のペースに合わせて、穏やかに過ごしていただけるか。
	地域の人達への学習の場を提供すること
	認知症の方の対応について周知していきたい。地域からの情報から、精神科への受診などにつなげていきたい。
	認知症の人との関わり方をもう一度見直す。
	認知について入院時スタッフへまとめて伝達しようと思います。
	家族との関わり
	ますます病院や地域のサービス機関との連携が重要となってきたことが分かった。
	その人が納得した治療が受けられるよう、優しく見守る。
	職場がそれほど直接的に関わる部署ではありませんが、認知症の方と関わる時にはおおらかに接したいと思いました。
	とても勉強になった。認知症について今後も学び続けていきたいと思いました。
	やさしい言葉遣いをしていこうと思う
	総合病院としての認知症患者に対するケアの見直し。地域へつながるような役割の見直し。
	認知症対応に強い多職種連携を考える会を作る。
	地域全体で「伝えること」を意識して情報提供、相談、家族との関わりを大切にして取り組んでいきたい。
	認知症の方への接し方、ぜひパンフレットを入手してスタッフへも広め研修したい。
	認知症の方の対応の学習会
	認知症の方に対する関わり方を、学んだことを活かして考えてみたいと思いました。
	職場に戻ってチームメンバーに今日の研修会の伝達講習をします。
	家族を「楽」にしてあげるにはどうしたらよいか？がメインのように考えがちになり、認知症をかかえる本人を考えることに力をいれたい。

所 属	意 見
ケアマネジャー	家族、医療機関と認知症について共に学び情報共有する事。ご本人の安心した生活の援助を地域で支える事への協力。
	チームワーク
	拒否のある方などを担当している方の背景や環境を再度振り返ってみたい。
	担当している認知の方をもう一度考えてみようと思いました。
	ご本人やご家族が穏やかになれるケアプランの作成。
	利用者への接し方や多職種との連携をもっと多くしなければならないと思う。
	家族との関わりを深める。
	丁寧な説明
	多職種とのコミュニケーション
	薬剤師ともっと連携をとってみたい。
	家族との関わり
	家族に対する支援について、医療との連携について考えてみたい。
	仕事もさることながら、まず自分の住む町で出来ることは何か。参加できることはあるか。
	認知症の人に対しても一度やさしく対応していく。
	本人の希望を1つ叶えるチーム作りをしたい。
	課題を明確にしてモニタリング・アセスメントを行う。
	家族へのアセスメントを行い、何が大変なのか改善に向けて取り組みたい。
	先生、病院への恐怖心をとっていく。様々なサービスを知る。
	他職種との連携
	担当ケースの半数がⅢa以上のため、もう一度今の自身の関わり方を考えようと思います。
	在宅訪問時に認知症についての説明(あまり深くならない程度)
	魂の話
	主治医へもっと近づこうと思った。入院病棟へもっと近づこうと思った。
	利用者のかかりつけ医との連携を密にしたい。Net4Vの活用。
	優しく触れ合う
	ユマニチュード
	役割分担を明確にするためのアセスメント
	施設から在宅へ戻る方法

所 属	意 見
サ ー ビ ス 提 供 事 業 者	デイの様子を家族・ケアマネに報告
	おおらかなケアと生活の背景をみて接すること。
	事業所から気付いた点の情報発信。本人だけでなく家族からの相談をしっかり聞く。
	沢山あり、よかった。
	家族へのケア。利用者様が心穏やかに過ごせる工夫。
	デイ利用中の細かな変化の家族・ケアマネなどへの報告・連携
	本人の希望を第一優先としてできる範囲でかなえる方向性が大切と改めて感じた。
	利用者に対する時の態度を変える。認知症の方に対する方法がわかってきたので(おだやかにその方に合った方法を考えていく)
	本人・家族をおだやかにするケア。
	ケアマネとの密な情報交換
	今、自分の立場で出来る事、サポートできることについて考える事ができ、いろいろなサービスとの連携していくことの大切さを感じた。
	本人・家族の訴えを傾聴すること。他職種との連携・相談する。
	認知症者への関わり方の勉強
	認知症初期集中支援チームが早く機能化してほしいと思いました。支援チームのメンバーとして明記されている作業療法士を活用して下さい。
	相手の気持ちを考えて話をする。
	個人のペースに合わせた対応をやってみようと思う。
	人も環境という話の通り、今ある環境をアセスメントし、何かあれば変えるという事もしていければと思う。
	おだやかにさせるケア。ユマニチュード。
	気付いたことをまめにCM、上司に報告しようと思った。
	他職種連携の強化。職員の指導。
	小さなことでも家族やケアマネージャー、医療と情報交換
	スタッフは利用者の環境の一部になれるよう取り組んでいきたい。
	今一度デイサービスについて考えさせられた。先生の最後の言葉が身にしみました。
	他職種への積極的な情報提供や相談。
	一人ひとりの方と深く関わり、地域の方と支えていくよう考えて働いていきたい。
	利用者本位は当たり前だが、その方のために対して他職種者と連携をとる。グループの進行係がとても優れていたため、、中身の濃い話し合いができて感謝しています。
	利用者が穏やかに過ごし、家庭での様子を聞き、対応方法等アドバイス等を通し家庭で介護を継続できるようにしていきたい。
	本人とFaが穏やかに過ごせるケア
	どんなサービスがあるかを把握しておく。穏やかに過ごせる取り組みを考えて取り組む。
	認知のレベルに合わせて接する。

所 属	意 見
地 域 包 括	包括のやるべきことをもう一度見直したい。
	認知症の知識の普及
	悪くならないうちの受診
	物忘れ相談連絡等。病院、家族や事業所との連絡調整。
	認知症の方への対応。
	今後の自分の姿勢に活かせると強く思った、事例検討だった。
	「云う」を大事に
	他職種との連携・医師との連携
	地域の方にもっと認知症の対応の仕方について広げていこうと思いました。家族とより連絡を取っていこうと思いました。
	地域での会議や連携を図る事。認知症サポーター養成講座を学校(小中高)で実施し、地域での支える仕組みづくり。
	認知症サポーター養成の開催。認知症ケアパスは良く分からないところがありましたが、地域住民に発信し続けていくこと。
	関係機関ともっと「言い合える」仲を作りたい。
	認知症ケアについて学ぶこと
	地域への相談場のさらなる周知。認知症サポーター養成講座をし、地域へ認知症のことを知ってもらおう！！
行 政 ・ そ の 他	認知症への知識普及をより生活につなげる形で行う。子供への知識普及も確かに大切だと思った。
	認知症の方、家族の思いを受け止め、支援していきたい。
	「施錠を勧めた事」が失敗だったとこの家族(事例A)が言えるようなケアが今後なされるように！！
	認知症の方の気持ちを考える。どうしても介護者目線になりがちだったので。
	周知
	医療(Dr)も会毎の連携。しっかり伝えあう！関わり方などについて。地域への理解を深める事。
	今後の自分の活動に活かします。
	認知症になったら近所の人に話して協力してもらって良いのだと広めたい。

4. 課題について

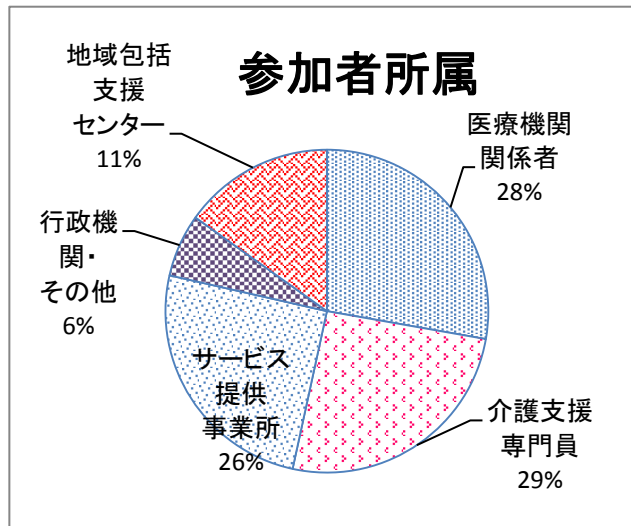
所 属	意 見
医療関係	情報の共有 介護職から医療職への相談、主体的活動など医療関係者がわからない所などお互いに情報交換し合う。 それぞれ忙しくなかなか人数をそろえてのカンファレンスがひらけない 情報の共有、連携 地域を考えること。 歯科が連携に入らないこと もっと顔の見える関係。 地域で行われている支援について何も知らないことが多く、勉強していく必要があると思いました。 人を支援する 視点を变えて、介護(日常生活)のことを考えての看護サマリーもしくは、情報提供を行いたいと思います。 それぞれの立場が、自分の立場の仕事で終わってしまうこと。 お互いの利害をこえて連携すること。もっとできることはないのかと話し合えること 情報共有 介護のことをもっと理解する 情報交換、家族関係 情報共有 同じ情報を共有することが難しい。機会が少ない。 情報の共有をリアルタイムにみつにするには何が必要か
居宅介護支援事業所	医療側の敷居の高さ サービス提供事業者ももっと連携スタッフに加って欲しい 顔も見える関係づくり 自身のカベ 地域の開業医との連携 相談したい時に、同意書とか言われたり、担会以外ではダメだったりすると困る。 相互の知識と理解を高める 精神と認知症の両方がまじった方々の支援について 自分で作っている壁 Drとの関係 医療相談室を含めた医療側の柔軟な対応、退院後も必要があれば情報の共有が必要な場合もあるので、退院したら答えられないとシャットダウンしないでほしい。 Ne+4Vで先生(Dr)との連携が強まっていると思うが、Ne+4Vに入っていない先生との連携方法 医師の理解 医療は介護よりしきいが高く感じるDrともうまく連携していきたい 医療依存度が高い方の在宅介護。退院時の指導について。ヘルパーによる医療行為ができる事業所が少ない。難病・医療依存度が高い方のショートやレスパイト入院先がない 病院の看護師さんが在宅のことまではわからない。在宅の人は病院内の流れが分からない。その中で専門に分けつつ共有しようとするのが大切だし課題。
サービス提供事業者	地域、ボランティアももっと必要になってくるのでは？ 医療機関同士の関わり 生きる力をサポートすることに対して、ケアマネジャーを中心に連携を継続しつづけることが重要であると思いました。 顔を合わせる機会が少ないので、このような会で色々話し合うことが大切、積み重ねることが必要なのだと思います。 ちょっとしたことでも連絡をとること 連携がもっとスムーズに行くように心がけたいし、チームワークが重要だと思った。

所 属	意 見
地 域 包 括	顔の見える関係。おっくうがらずにケースを通して相互に相手を知ること。関係者の目を借りて、より深く、対象の人間像を知ること
	よりお互いの領域について、詳しく知っていくことが大切だとも思います。
	関係のつくり方、結びつき
	多職種についてもっと理解していきたいです。
	多職種を受け入れていこうとする気持ち
	医療と介護を個別に考えてしまうこと。
	顔も見えない関係。情報共有・意思統一について
	相手が何をする人かもっとよく知る
	Dr、Nsとのやりとり(大きなHP)は連携取れるようになったが、開業医とのやりとりが難しい。
	サービス担当者会議等により利用者にかかわれるカンファレンスを在宅主治医も含めて、もっとポピュラーにできるように
	一つのケースでも相当エネルギーを費やしていると思うのですが、早く、類似ケースが出てきた場合、チームづくり、カンファレンス等のマニュアル化が進めばよいと思います。
	たった2時間。いかに大事に有効に使うかですよね。毎回、初めて参加する方が多いので、初めての方に合わせた内容でも良いのでは？あまり高度な連携ではなく、まず入り口の確認を今一度・・・。
行 政 ・ そ の 他	相手がどういう情報が必要かをお互いに確認し合うこと。
	病院との連携は出来つつあると思うが、在宅の先生方、看護師とはなかなか交流する場がないので、今後関わりを持っていけたらと思う。
	開業医との連携のための看護師と在宅サービスの相互理解。
	共通認識をもつこと。研修会を通して学びを深める活動は大切だと思う(今後も継続を) 地域(地縁)の支援ネットワークの育成、地域のボランティア不足 市民の医療、介護連携の意識づけ ①地域住民の意識等②横のつながり、ずいぶん進んでいるが

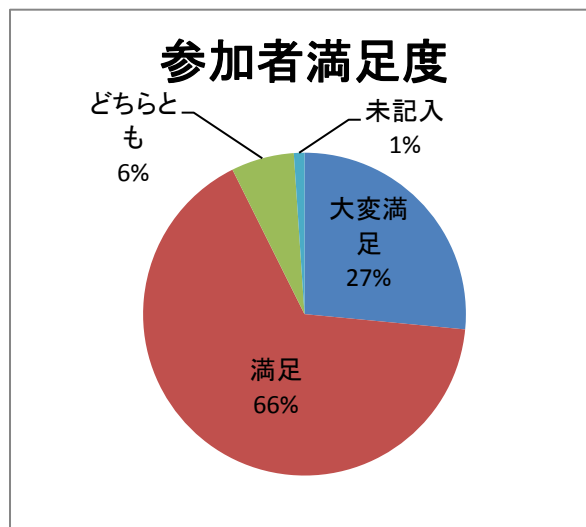
5.次回の研修会に希望すること

所 属	意 見
医療関係	後藤先生の話をもっとゆっくり聞きたいです。 看護師としてEWT支援に関わっていける事は何かもっと学習してからまた参加します。ありがとうございました。 認知症への対応方法。家族への声かけ。 グループのメンバーがその後も日常連携できる関係になるように、自己紹介・雑談の時間が欲しいです。 同じ認知症をテーマに、実際に今度は地域での自宅で過ごしている認知症の方の事例をもとにどのような関わりをしているのか、していってほしいかを行ってほしい。 事例を多く発表してほしい 退院支援についてもう少し具体的な事例、困難事例などで話し合いができればいいと思う。 これで終わらず認知症対策について第二回も深めていただきたい。 ケアマネジャーさんの日々の活動が知りたいです。
居宅介護支援事業所	4人のチームでは話が広がらない。 講師の後藤先生もいいのだが別の先生でもいいのでは。 難病の方のレスパイトを考える。 認知症を知ってもらうための活動にどんなことがあるか。 精神の方の対応。一人暮らしのCMの動き。(Far遠方、身寄りがいない) 有意義な研修をありがとうございました。 発表は必要ないと思う。 違う講師の方の話も聞いてみたい。事例発表→グループワークのパターンが続いているので違うパターンの研修。 研修はとても満足しています。1つだけ長寿介護課の対応に不満があります。担当の方の気分の浮き沈みで資料請求に遅延が出たり、業務に支障が出ています。以前のように円滑な対応を強く望みます。
サービス提供事業者	(今回と同じであるが)介護の分野なので病院等の症例を聞ければ。病院でのケアの展開など。 机が狭かったので、会場の制約はあると思うができれば改善していただきたい。 何でも勉強になる。 地域ケア会議について 大変役に立ちました。ありがとうございました。 今回のようなディスカッションのある研修会が良い。
地域包括	引き続き認知症。ケアの実践。 精神障害者が地域で安心して暮らせるための対応・事例 さすがに人数が多かったと思います。周りの声がうるさくGWが大変でした。 同じような形で良いと思います。 楽しくグループワークを行うことができました。ありがとうございました。 グループワークをもう少し削り、先生のまとめを聞きたかった。 退院支援・連携 在宅から医療に繋ぐ場面での認知症事例を聞きたい。 参加者からは自分のグループの番号ごとの名簿が良いという話もあった。
行政・その他	BPSDへの実際の対応事例。 スタッフの皆様、お疲れさまでした。 精神科分野の疾病と看護・介護について。ネットワークメンバーの皆様ご苦労様でした。

医療機関関係者	28.0%
介護支援サービス提供事業所	25.9%
行政機関・地域包括支援センター	25.4%
行政機関・地域包括支援センター	6.3%
行政機関・地域包括支援センター	15.3%



大変満足	26.5%
満足	66.1%
どちらとも	6.3%
やや不満	0.0%
未記入	1.1%



初めて	37.0%
2回目	14.8%
3回目	47.6%

